





理 念

域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。た医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通っ私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関安全・信頼・連携・地域密着

選ば

n

ろ

病

を目

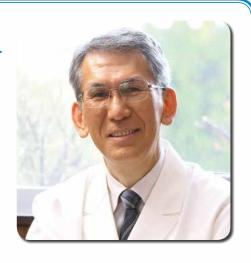


高齢者の終末期医療

医療法人正観会 御野場病院 院長 皆 河 崇 志

昨年、昭和を代表する放送作家であ りタレントでもあった二人の方が他界 されました。永六輔さんと大橋巨泉さ んです。還暦を過ぎた方であれば、テ レビの黎明期に縦横無尽に活躍された お二人の姿を懐かしく思い出されるの ではないでしょうか。永六輔さんは10 年以上パーキンソン病を患っていまし たが、最後はご自宅で亡くなられまし た。享年83歳。娘さんが寄稿した新聞 記事によれば、前日アイスクリームを 食べた時の「おいしい」が最後の言葉 であり、眠るように旅立ったというこ とです。まさに「大往生」でした。大 橋巨泉さんは長らく癌を患い、複数回 の手術を受けるなど、徹底的に癌と戦 いました。最後はご自宅での生活を希 望されましたが、自宅療養中に病状が 悪化したため急性期病院に搬送され、 集中治療室で治療を受けたものの回復 せずに他界されました。享年82歳。大 橋巨泉さんの場合、在宅医療を担当し た医師によるモルヒネの過量投与が寿 命を縮めたのではないかというご家族 からのコメントがあり、後味の悪い最 期になりました。

御野場病院に入院する患者さん、そして往診している患者さんはご高齢で認知機能の低下している方が多いので、多くの場合、終末期医療の方針はご家族の希望に沿って決めているのが現状です。このため、ご家族には、患者さんの意思を推し測って判断しています。ご家族の気持ちだけで判断すると、肉親の情で延命治療を希望するケースが多々あるからです。私は、ご高齢であってもを確認するようにしています。この場合、ほとんどの方が「自然に逝かせてほしい」と回答します。「よくぞ訊い



てくれた」と云われることもあります。 やはりご本人の意思を確認することが 大事なのです。大橋巨泉さんについて は様々な報道がありましたが、巨泉さ んご自身がどのような最期を希望され ていたかに言及した記事はありません でした。十分な話し合いがなされない ままに、延命治療が選択されたのかも しれません。

高齢者の終末期医療の大きな課題のひとつは、栄養管理です。寝たきりとなった患者さんの栄養管理は悩ましいところです。口から食事を摂れななると、経鼻胃管栄養、胃瘻造設、さらには中心静脈カテーテルによる高カリー輸液へと進むことがあります。この疾を持続吸引しる。といるのだと思いますが、おそらく、多くの場合、患者さんの意思に反した選択なのだと思います。

高齢者の終末期の病気や病状は様々であり、対応の仕方も多様であるべきだと思います。大事なことは、元気な時は「Quality of Life:生活の質」を重視するように、人生の最終段階を迎えた時は「Quality of Death:人生終焉の質」に配慮すべきだと思うのです。我々医療者は、「事前指示書」や「リビングウイル」の記載を勧めるとともに、訊きにくいことではありますが、できるだけ患者さん自身の意思を直接確認すべきだと思います。

第6回

南部圏域の地域包括を考える会 (なんケアの会)を開催しました



── メインテーマ ·

「生き活き」と暮らすために ~一歩進んだ地域リハビリ~

--- サブテーマ -リハビリテーションよもやま話 ~興味は身近なところから~

開催日時:平成28年12月13日(火)18:00~19:05

場:南部市民センター なんぴあ

参加人数:69名



12月13日火18:00から南部市民センターなんぴあで、公開講演会が開催されました。今回は「リ ハビリテーション」について、リハビリテーション専門医である当院診療部長の三浦忠俊先生よ りご講演をいただきました。地域の方も合わせ、地域包括支援センター、介護支援事業所関係、 医療機関関係者、調剤薬局等、70名ちかくの参加がありました。

講演では、身近な力学と運動学、杖の効用(なぜ杖をついて歩いた方が良いのか?)、筋力低 下と筋萎縮との関係等について詳しくお話していただきました。また、講演終了後の質疑応答で は、参加した方からの質問をもとに日常生活でできる筋力低下を防止できる運動等を詳しく教え ていただきました。実践に活かせるお話を聞くことができ、とても有意義な講演会でした。

次回からはメインテーマを「パーキンソン病とうまく付き合うために」とし、勉強会を予定し ています。引き続き、地域連携の一環として地域の施設や在宅ケアに携わる方が気軽に参加でき、 実践に役立つ研修会にできるよう尽力してまいりますので、ご指導ご支援頂きますようお願い致 します。

とても熱心な講演 ありがとうございました。 大変興味深く聞かせて いただきました。

参加者の 皆様からの

現場で必要と思われることを 患者様に理解して頂き、実行 してもらいたいが、なぜ必要 なのかが説明できず困ること があります。

杖の必要性についてよくわ かったのでこれからの仕事 に活かしていきたいです。



た。「杖を使うことによって 負担が1/3になる」という事 を知って、患者様への説明に 加えてみます。

ほほえみサロンおのば

地域の方々を対象とした無料の公開講座や気軽に集える場所の提供を目的とし た、ほほえみサロンおのばが昨年より月1回のペースで開催され、3回目の開催 を迎えることができました。

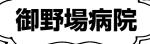
会場では、当院職員による専門分野(医療、リハビリ、食事など)に関する講 演やそれにまつわる疑問質問受け付け、健康相談などが行われました。

3回目のサロン開催では、当院の管理栄養士より、食事に関する講演を行いま した。約30名に参加していただき、詳しい話が聞けて良かったと、ご好評いただ きました。

今後も医療に関すること、認知症に関することなどをテーマに地域の方々に情 報を発信してまいります。皆さんが気軽に集まり、語らいのできる場所づくりを 目指してまいりますのでよろしくお願いします。参加希望等や開催日時の確認は、 当院サロン担当事務局へご相談ください。認知症に直接かかわっている方でなく ても、今後のためにという方でも結構です。皆様のご参加をお待ちしております。



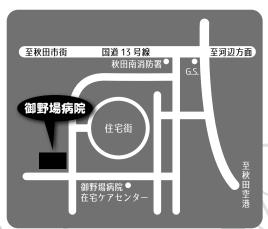
・お問い合わせ先



秋田市御野場二丁目14-1

TEL.018-839-6141

担当:(事務)佐々木・松村・荒川



医師紹介



副院長 石黒英明

昭和の高度成長期に生まれた私は、その頃の男 の子の標準で、鉄道(模型)やカメラを欲しがっ たり、"いつかはクラウン"の流れで高級車やスー パーカーに憧れたりしていました。しかしそのい ずれもが叶わないまま大人になり、子供にその意 思を継がせようと思うにも平成生まれの子供はそ れらには一切興味を示さず断念。ようやく今ころ になって細やかにその夢を手にしているところで す。たまにですが休日には、めったにシャッ ターを押すことのないカメラをリュックに入 れ(絵心がないので持っているだけ)、わざと 各駅停車に乗ってプチ旅行を楽しんだり(いわ ゆる乗り鉄)、時刻表の上で空想の旅行を楽しん だり(いわゆるスジ鉄)しています。

私の秋田歴は、平成6年春に秋田赤十字病院に 赴任してから始まりますが、実は母方の祖母の ルーツは秋田で、曾祖父のお墓は矢島にあります。

前任の病院では急性期の医療を中心に神経内科 医として日々慌ただしく勤めていましたが、これ からは腰を据えて患者さんを望む方向に見守るこ とのできる(神経)内科医としてこの病院でやっ ていければと思っています。

よろしくお願い申し上げます。



昨年の12月22日(木)はランチデーと茶話会 🗼 の日が重なり、ごちそうづくしの豪華な一日 になりました。

ランチデーでは、常食の方へクリ スマスを意識した「もみの木ハンバー グル、飲み込みの弱い方にも赤と緑の 「クリスマスサラダ」のメニューで、 見た目で気分を楽しんでいただきま した。寒い冬を乗り越えられるよう 栄養をつけてもらうため、野菜がたっ ぷり入ったポタージュは全患者さん へ提供しました。

15 時のおやつには、「ロールケー キ」や「3色ムース」のクリスマス スイーツを用意しました。

患者さんからは「お昼もおやつも ごちそうでお腹いっぱい」と心も体 も満足の声が聞かれました。

